

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400184		
法人名	スマイル ケア(有)		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	千葉県香取市佐原イ1689-2		
自己評価作成日	令和 4年 1月 6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和 4年 1月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の理念である「ゆっくり・一緒に・楽しく」を充実させるべくチームケアを徹底し、利用者が自由に過ごせるサービスを提供しています。すべては、「利用者様を第一に」と考え、利用者様一人ひとりをよくみて職員に何を求めているのか、何かできることはないのかと常に考え気づく大切さを念頭に置き、笑顔の絶えない施設づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の良い点①本年度食物アレルギーを持つ利用者の入所に当り、利用者の安全と職員の安心を担保する為の工夫を話し合い、食材料を業者から調達する事に仕組みの変更を行なった。結果買い出しの時間が削除され利用者向き合う時間が増える等良い結果に繋がった。又コロナ禍で企画外出不可能な状況の改善についても検討を行ない、今まで合同で行なって居たレクレーションを一階・二階に分けて行なう事とし、担当職員を決め企画内容の検討を行なった結果、より細やかな利用者の要望・希望を取り入れたレクレーションを行なう結果に繋がり、利用者職員が楽しむ時間の演出が出来た。このような状態変化に職員一同で検討し、柔軟に仕組みの変更と改革に取り組み『ゆっくり・一緒に・楽しく』の理念に寄り添った支援を行なっている点。②職員とケアマネで検討し作成したケアプランを絶えず目の触れる場所に置いて支援の内容がプランに寄り添っているかを確認しながら行なう仕組みがある。今年度アイパット採用の為ケアプランと介護記録が一緒の書類にはなっていないがその精神は職員に受け継がれて実践されている点。③働き方改革についても継続的に話し合いが行なわれ職場環境の整備が行なわれている。本年度は休暇取得率が向上した事が仕事上での余裕を生んでいる点。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・一緒に・楽しく」の理念に即した生活を送ることが出来るよう努めるとともに、家庭的な環境の下で入浴・排泄・食事等の介護を行う。個人の生活ペースに合わせた生活を送ることが出来るよう努めている。	理念実践の為、今年度は言葉遣いを重点目標とした。職員同士の指摘や管理者の指導を徹底する事で利用者に対する言葉が改善した。利用者への尊厳に配慮が行き届き信頼関係が更に向上し職員の介護に対する自信が向上した。	単年度の目標設定で「理念」の実践が出来た事を踏まえて、今年度も職員と協議し、分り易い言葉をモットーに掲げる事で全員が理念の実践に近づく事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は近隣保育園児の定期訪問や小学生による職場体験の受け入れを行っていたが、コロナ禍の影響により昨年より中止している状態である。また、草刈りなどマンパワーの問題もあり参加が行えていない。	散歩に出かけ近所の池の鯉を観て挨拶をし、町内会の草取りや祭りを見に行き交流している。保育園児が定期訪問をしてメダルのプレゼントや手遊びをして喜び、小学6年生の職場体験では認知の話・子供はダンスを披露・お茶を入れ話をして楽しみ、絵の得意な子供と利用者が絵の交換をし涙して喜び繋がりが深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症より相談の受付窓口として近隣の皆様からの問い合わせに対応できるよう体制を整えているが、現在、近隣住民からの問い合わせなどなし。キャラバンメイト在職中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的には開催は行っているが、昨年より新型コロナウイルス感染防止対策として、運営推進会議は書面での対応となっている。この影響もあり確実な話し合いや意見交換が行えていない。	地区役員交代やコロナ禍での状況から会議開催が困難を極めている。施設で実施したアンケートをヒントに課題等具体的な質問をしたためてお願いのアンケートを送り、家族や地元住民の意見を運営に活かす工夫を取り入れる事を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より案件に応じた担当課と、報告・連絡・相談を行っている。	運営推進会議は市の担当者・区長・行政協力員大家・家族が参加して年6回開催が予定されている。会議の意義を家族に説明をして参加で、ヒヤリハット・事故報告をして利用者の状態の理解に努め、行事・勉強会等を報告している。職員不足への対応や家族からの質問に応え意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを基本原則としている。しかしながら、時間帯によっては交通量の多い道路に面している玄関、及び2階フロア入り口である階段際については施錠しているが、入居者様より開錠の希望があった際には、都度開錠を行っている。	身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。「ちょっと待って等」言葉の拘束は「倫理と虐待等」勉強会を行いホームでの身体拘束と思われる事例について管理者より研修とグループワークで話し合い議事録を回覧して周知している。家族には運営推進会議の中でスピーチロックの内容と意味を説明し理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的には高齢者虐待防止についての勉強会(新型コロナウイルス感染防止の為文書にて対応)を行い、知識・認識を高め実践につなげ慣れるよう努めている。日々の業務においてもスピーチロックなど行っていないか、職員間でも意識しあい管理者も目配り、情報収集、助言などの対応を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間を通して行っている勉強会の中で、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インテーク時にも同様だが、懇切丁寧に説明を行うよう心掛け、都度理解についても確認しながら行っており説明責任を果たすことが出来るよう努めている。(現在、入居者様生活スペースには感染対策に伴い立ち入れないため、写真にてホーム内の様子の説明を行っている)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口・市福祉課・全国グループホーム連絡協議会の連絡先を明記し説明を行っている。また、ご家族の来設時や電話連絡などの際に利用者様の状態の報告や要望などを伺って、可能な限り個別での対応を行うことが出来るよう申し送りや業務日報などにて周知業務に反映させている。	家族は運営推進会議に参加しホームへの要望と取り組みへの理解をしている。来訪時には職員は利用者の状態を説明し要望も聞いている。来れない家族には電話連絡をしている。利用者の状態変化時にはホームでの出来る事を説明し、限界もあり他施設への移転等話し合っている。職員は利用者との話の中でニーズを聞き、水分摂取や排便等の変化を報告し、特記事項は業務日誌に記録し申し送りをして反映している。	より広く家族の意見を運営に活かす為、アンケートを活用し具体的な課題を質問に掲げて意見を募る事で訪問の少ない家族からの意見を採り上げる仕組み作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃の会話でも職員からの意見の吸い上げに努めている。また、毎月のミーティングの議題なども業務改善案など職員から上がったものを検討し改善を行っている。	仕事の仕方・時間配分を見直すため意見の交換を絶えず行なっている。アレルギーの利用者入居を機に対応を話し合った。事業者の食材を利用する事で安全安心な提供が出来る様になり、時間の余裕が出来た事で会話に振り向ける時間が増えた事が介護の向上に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は必要に応じ職員との面談を行い、代表へ報告を行っている。実績や努力などを考慮し、給与などの見直しを行い向上心を持ち業務を行うことが出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会及び研修については、個々の力量に合わせた指導を行っている。外部研修については、コロナ化により中止や延期等あったが、再開している研修などから参加を行っている。直近では、初任者研修の受講予定あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は関係団体の役職を担っておりネットワークづくりに貢献している。事業所としても地域密着型連絡会やネットワーク会議に参加し交流を深めるよう努めているがコロナ禍の影響にて会場に参集しては行われていない。(現在、オンラインにて開催中)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みを頂いたのちに、ご本人様がいらっしゃる所へ出向き話を伺っている。不安や意向・要望など入居後に可能なこと不可能なこと(代替え案含む)をお伝えしながら、良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様から希望や意向・思いを聞き取った上で、グループホームとして出来る事だけでなく出来ない事もお伝えし、可能な限り希望に沿ったサービスを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際に、グループホームの特性の説明を必ず行っている。それに伴い他施設についても入居施設ごとに特色がおもお伝えしている。可能な限り見学を行うようサービスの選択の幅を広げつ事ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る能力に応じて、日常生活の中の作業(洗濯・掃除など)と一緒にを行い、共に支えあっていると感じられるような支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じてご家族様と連絡を取り、様子について説明を行っている。また、来設時には話し合いの場を設け関わりを持っていただき、共にご本人様を支えていると感じられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が訪ねてきやすいように、電話をかけてきやすいように努めており、「次」があるように対応している。また、ご本人様が電話を掛けやすいように支援も行っている。(窓越し面会のほか、ウェブ面会も実施中)	入所して間もない人には近所の人々が訪問し、限られた人には昔からの知人友人が訪問している。契約時には家族にいつでも来てくださいと説明し、利用者からの要望を伝えて訪問が行われている。利用者の要望で馴染みの場や家族と一緒に美容院に行く人もいる。利用者同士の関係が「ぎくしゃく」した時に、昔の姿の写真を観てその人の事を理解して「わだかまり」がなくなる写真の効用が見られている。WEB面会の仕組みを作ったが残念ながら一家族のみに終わっている現状から窓越し面会を毎月のお知らせで紹介し家族との絆の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性で把握したうえで、食堂の座席の位置や職員の関わり方に配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様にはいつでも気軽にご連絡いただけるよう声気替えを行い、来設時には必要に応じ相談を受けている。(感染防止対策にて利用者様との面会は窓越し面会及びウェブ面会にて対応中)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネージャーや管理者はもちろんのこと介護職員においても入居者様との日頃の会話やコミュニケーションやご家族様からの情報等により暮らし方や希望・意向の把握に努めている。	利用者と職員のくだけた会話や何気ない話の中から情報を得て、家族にも確認をしてに努めている。また、利用者の変化時には業務日誌に記録し申し送りをして情報共有している。利用者のニーズを聞き取り、利用者の出来る出来ない事の理解力に応じて出来るサービスを行っているが、ニーズと出来るサービスの差を少なくする工夫をして取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、関係事業所より聞き取った情報等をアセスメントシートに記入しミーティングや担当者会議などにて情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録は昼夜でペンの色を変えて記載し分かりやすく区別している。また定期的に担当者会議を開催し心身状況等の確認を行い共通認識都市ケアプランに反映している。(現在 ipat での記録に移行中)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の状態の確認やご家族様から聞き取りを行った情報をアセスメントに記入し、ミーティングや担当者会議などのより情報の共有を行っている。また、主治医の意見も踏まえ職員間で話し合い計画書を作成している。ご本人様の状態の変化時等、必要に応じ見直しを行っている。	職員と相談して作成したケアプランと毎日の介護日誌を一冊にする事で、日々の支援の中で目標とする、例えば廊下10往復の歩行訓練など、確認が何時も行えている。出来なかったのは自分達か利用者側の問題なのかを確認し乍ら目標に向けたモニタリングが出来ている事が良い結果に繋がっている。	アイパット採用で一冊にした良い仕組みは今は無いが、ケアプランに沿った介護支援が出来る様何時も一緒に所にはおいてあり、目標とすべき支援の内容が職員には何時も確認出来ていて、ケアプランに沿った支援の実施の継続が出来ているので今後も継続する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に入居者様の様子、職員の対応、入居者様の反応等を記入しており、それをもとに話し合いを行い計画書作成に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況やニーズに合わせて柔軟に対応を行えるよう努めている。 例)利用者様に合ったオムツ類を個別に業者より購入等		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所時に入居者様を取り巻く環境について確認し可能な限り入所後も、いろいろな方と関りを継続することが出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様に馴染みである地元の医師による訪問診療だけでなく、ご本人様・ご家族様のご意向により入所前よりのかかりつけ医を継続利用を行ったりまた、ご家族様へは受診後の検査結果など必要時には必ず行っている。	入所時に医療体制を説明し、かかりつけ医の受診継続を支援している。受診は家族が同行しホームか相談内容を明示し、処方箋もらって薬の管理と医療サマリーに記録して共有している。月一回の往診では血液検査がなわれ管理者は検査結果と利用者の状況を話し合っている。発熱等体調変化時には利用者の状態によって受診・往診が行われ家族に報告をしている。看護師による皮膚疾患等健康管理とアドバイスが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の正看護師により4回/月、入居者様の体調管理を行っている。また、看護師と介護職員・訪問診療医などへの相談・報告にて連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	救急指定医療機関の医療連携相談室との連携を行っており、情報効果や相談も可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合について、詳細に説明を行っており、状態の変化があった場合には可能な限り主治医を交えご家族様と今後の治療方針やケアについて話し合いを行うことが出来るよう努めている。	入所時に重度化・週末期の方針について「看取りは出来ない事・終の棲家ではないので終末期には今後の方向について相談する等」説明している。利用者の重度化時にはホームの出来る事・出来ない事があり他施設の情報と移転等を話し合っている。終末期が近くとその都度、家族・医師・ホームで話し合い今後の方向を決めてケアに反映させている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルの見直しを定期的に行い職員への周知を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨今の各地における自然災害により災害発生時マニュアルを見直しをし、困難な状況でも可能な限り安全を確保できるよう、継続検討している。	災害発生時マニュアルは職員の施設までの所要時間を踏まえて役割分担を決め職員の理解を得ている点など非常に良く出来ている。管理者は行政と打ち合わせ避難場所・経路など確認した結果昨年の台風時には全員無事に特養施設へ避難が出来た。ハザードマップでの確認や地域との連携にも配慮が行なわれている。	災害はともかく、人的ミスによる火災・事故撲滅の為にはとにかく細やかな確認とチェックが大切との認識があるのでその仕組みを今一度構築し、励行出来る仕組みを職員全員で認識する事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーや尊厳を守ることが出来るよう配慮しながら声掛けや支援を行うよう努めている。言葉使いには十分気を付けるよう職員へは個別に指導を行っている。よりよく過ごしていただけるサービスを目指している。	利用者の理解力に合わせて云った言葉を繰り返して共感し、意思の表せない人には表情を見て推し量って思いの理解に努めている。利用者への言葉遣いは大を出さない様に注意し「お手伝いさせていただきます」と優しい言葉のケアと行動で示している。利用者の生活レベルやペースを大事にし希望に添える支援を行っている。居室にはノックと挨拶をし、トイレや入浴時には扉を閉めて羞恥心やプライバシーに配慮している。	今年度の目標の言葉遣いの改善は出来た事を踏まえ、次の目標を相談しながらより具体的なモットーで利用者の尊厳に寄り添った支援が行なわれるよう、共通の「標語」を作り期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の理解力に合わせた声掛けを行っている。意思疎通の困難		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活レベルやペースを把握し、できるだけ希望に沿うよう事ができる状況に応じて臨機応変に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に着替え、朝食前などに身だしなみを整えている。髪を整えたり髭剃りなど、入居者様に合わせて支援を行っている。また、スカーフを使い襟元のおしゃれを楽しむ支援なども行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が考えたメニューでホーム内にて食事を作っている。入居者様に合わせた食事形態にて提供を行っている。盛り付けや食器拭きなど、入居者様と共に行っている。	業者の食材を採用した結果、安全は勿論のこと色味や食材の意外な使い方などが利用者の食事に対する興味を向上させ楽しむ時間が増える結果となった。食器には陶器を用い、週に一度のパン食にする等楽しい時間となる様配慮している。又「刻み・とろみ等」食形態の心配りをし、利用者の今ある力を活かして「後片付けや食器拭き等」出来る事を手伝っている。正月・クリスマス・誕生会等イベント時の食事会や外食では寿司を楽しみ、家族との外食も行われ、食事を楽しむ様々な工夫が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に合わせた食事形態にて提供を行っている。また、食事摂取量や水分摂取量などを都度記録しており、摂取状況の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者様の状態に合わせた口腔ケアの支援を行っている。(感染防止対策にて定期的な訪問歯科は中止中。必要時に来設中)		
43	(16)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄を行えるよう、すべての利用者様に対し定時でのトイレ誘導が行えるよう支援を行っている。排泄時間や回数を記録しており、それぞれの入居者様の排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、定時上がる等の仕草を見て、声のトーンには気をつけて声かけをしてトイレでの排泄を支援している。リハパン人は尿を確認してその都度交換をして感染症やまたずれ防止に努め、夜間のポータブルの使用は定時に声掛けをして支援をしている。認知症への対応として水分摂取量を増やす事で便秘や脱水防止に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るだけでなく、水分や食事で排泄を促すことが出来るよう努めている。また、排泄を促すことが出来るよう、運動も毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行っている。入居者様1人当たり週2回は入浴していただけるよう支援を行っている。毎日入浴を行っていることで、何らかの理由により当日に入浴が行えなくても、翌日に振り替えて入浴を行うなど、柔軟に対応を行っている。入浴拒否がある方については、時間や人、タイミングなどを変えながら気持ちに乗るように対応している	利用者の体調や気分を確認して2日に1回入浴を支援している。拒否の時には時間・人を変え、トイレに行った時にさり気なく声掛けの工夫をして入浴に繋げている。体の状態に応じて体の位置や介助方法を変えて入浴の支援が行われている。脱衣室を温め、皮膚の点検をして外傷等のおかしい傷は申し送りをする。入浴時には職員は会話をしてニーズを聞き、席次の配置換えやケアプランに取り入れる事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の生活習慣に合わせるようにしているが、集団生活でもあることから、日中は起きていただき夜間に睡眠がとれるように生活リズムを整えることが出来るよう支援を行っている。夜間は安全確認の為、定期巡回を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	外部薬剤師の管理により、用法・用量・副作用などについての報告をスタッフへ申し送りや朝礼・ミーティング等において周知している。また、内服漏れがないようにWチェックを行い記録、内服チェック表をも用いて確認できるようにしている。入居者様ごとの薬情も各フロアーですぐに確認できるように管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事への参加・食器拭き・洗濯物などホームでの役割を持ち、自信をもって張り合いや喜びにつながるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止のため外出自粛を行っているが、車窓から紅葉見学に近隣の神社へ出かけた。	天気の良い日には、車イスの人を利用者が押しして3～4人で近くの小野川に散歩に出かけている。また、庭先での日光浴も行われ、気分転換が図られ表情も良くなっている。ホームの生活では座っている時間が長く足のむくみもあり廊下を歩く支援が行われている。桜見・イチゴ狩り・外食等を企画し体制を整えて実施され、家族と一緒に外食や自宅に帰り、墓参りも行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方がほとんどであることから、トラブル防止のためご家族管理として入居者様より物品購入の要望があった際には、立替金にて購入し、後日、利用料と一緒に請求を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には、家族・友人などへの電話の支援を行っている。また、かかってきた電話に対しても入居者様へつなぎ交流を深められるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにて過ごす時間が多いため、スペースを最大限に活用し歩行に支障がないようにテーブルの配置を行っている。TVを配置し皆で楽しむことが出来るよう配慮している。また、季節感を味わうことが出来るよう花を飾ったり、レクリエーションで作成した壁紙を貼っている。	コロナ禍でレク外出が出来ない分、共有空間でどうしたら安全で楽しめる事が出来るかを話し合った、今迄は1・2階全員で行なったレクリエーションを各階毎に行なう事を決め、出し物を考える役割や職員の出勤、利用者の身体能力に合わせた細やかな配慮を行いイベントを増や実施した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今以上のスペース確保がむずかしく、共有で使用するソファなどを設置することが困難である。このため、定位置である自席を離れ希望する場合には、別テーブルで過ごすことが出来るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた愛着のある家具などを持ち込んでいただき、居心地よく過ごしえいただける様に努めている。各居室にエアコンを設置しており快適に過ごせるよう居室ごとに空調のコントロールを行っている。	使い慣れたタンスやテレビを持ち込み、写真や遺影等を飾って居心地の良い居室となっている。温度管理には気をつけ、テーブルや窓拭き等清掃は出来る利用と一緒にいき、導線を確保して清潔で快適な環境が作られている。衣替えは家族に連絡をして揃え、自立支援のためにも一緒に衣替えが行われている。夜間巡回ではセンサー音に対応し、おむつ交換やトイレ誘導をして安全の確認をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様ごとにあったADLやQOLの向上につながるよう、家事手伝い、体操、レクリエーション、ゲームなどに参加していただき活気ある生活を送ることが出来るよう努めている。ホーム内は手すりやスロープを設置し、安全に移動を行うことが出来るよう配慮している。		

目標達成計画

作成日： 令和 4年 1月23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	スタッフの対応などで評価できる対応などを確認した際、本人へは褒めることを行っているが、他スタッフへの称賛に値する、見習うべき行為であることを周知できていない。	スタッフ一人一人の対応や行動・発言などをよく観察し、称賛すべきことはしっかりと他者へもわかるように行い、モチベーションが向上するように指導を行う。	毎朝の朝礼などにて報告を行いとともに、疑似事例があった際には随時、口頭にて伝えていく。	1年
2	10	面会方法や対応時間など設定している日時とご家族の要望が合致しない。	なるべく多くのご家族様にご納得いただける対応を行う。	窓越し面会の時間の拡充。LIN電話などを使用したオンライン面会方法の拡充を行う。	1年
3	57	「ゆっくり・一緒に・楽しく」の理念に沿い、各スタッフは業務にあたっているが、ここが漠然として業務を行っている様子も見受けられる。	個々が理念に沿った自己目標を立て達成することが出来る。	スタッフそれぞれが、半年もしくは1年の期間での自己目標を立て達成できるよう業務にあたる。自己目標は、休憩室など、すべてのスタッフが閲覧できる場所に掲示し、上司との面談の際に目標達成度の確認を行う	1年
4					
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。